

「自分にできることから始めよう」



西

本梅小学校は全校児童42人の小さな

学校です。子どもたちは、全校遊びが大好きで他の学年の子のことももちろんよく知っていて、普段からとても仲良しです。そんな子どもたちの心をさらに高めるために「人権」について考える期間「人権月間」の取り組みをどのように進めていけばいいかを話し合いました。

①友だちのいいところを見つけよう。

②友だちががんばっていることを応援しよう。

その2つのことを「エールカード」に表現し、お互いに交換し合うことを児童会で決定し提案しました。すると1カ月の間にたくさん「エールカード」が集まりました。給食の時に担当教員が一枚一枚子どもたちの心のこもったカードを丁寧に読んでいくと、もらった人も書いた人もそれを聞いている人も、みんなにこにこ顔になっていきました。そしてランチルームの壁が見る見るうちにあたたかいエールカードで埋め尽くされていきました。人権月間のまとめとして、親子人権学習で「万華

鏡コミュニケーション」代表の藤尾まさよさんにお越しいただき、子どもたちと保護者の方、地域の方にお話をいただきました。藤尾さんからは「ドアを開けたときに自分の後ろに人が立っていたら、その人のためにドアを開けて待つてあげましょう。人権を大切にすることは特別難しいことをするのはなく、自分ができるところから始めましょう」と話されました。

エ

ールカード」の取り組みが終わってもお互いの頑張っていることに気付いて声を掛け合うこと、困っている人がいたら、まず話を聞いてあげること、自分の周りの人にできることから始めていくことが「人権を守る」ことにつながっていくことをみんなで学び

合いました。そして、できることをのりなで始めた。思いいます。



▲万華鏡の制作を行う児童

(西本梅小学校

人権教育主任

石野靖彦

※この原稿は、平成24年度に執筆。



今回のHOST

鈴木 嘉之さん

(農芸高校教諭園部町植生)



「平成20年ごろ、『PSDをこのまま捨てるのはもつ

たいないし...』という教員の一言からこの取り組みがスタートしました。最初は消極的でしたが、生徒らの課題として、一般的に使われているオガクズの特性と比較をしたり、堆肥として発酵させるのに最適な水分を調べたり、その堆肥を使って栽培実験をしたり、毎年いろいろな研究や実験をし、実現させることができました。昨年5月には福島県の相馬農業高校にこの堆肥を持って行き、現地の農地復興を手伝いました。その後も学園祭に招かれるなど交流が続いています。

どの代わりにPSDの有効利用が進めば畜産農家にとっては敷料の経費削減になる他、廃棄物の削減や資源循環に繋がるなど環境に優しい取り組みとして期待されています。



オガクズなどの代わりにPSDの有効利用が進めば畜産農家にとっては敷料の経費削減になる他、廃棄物の削減や資源循環に繋がるなど環境に優しい取り組みとして期待されています。

期待されています。

(市民環境課)